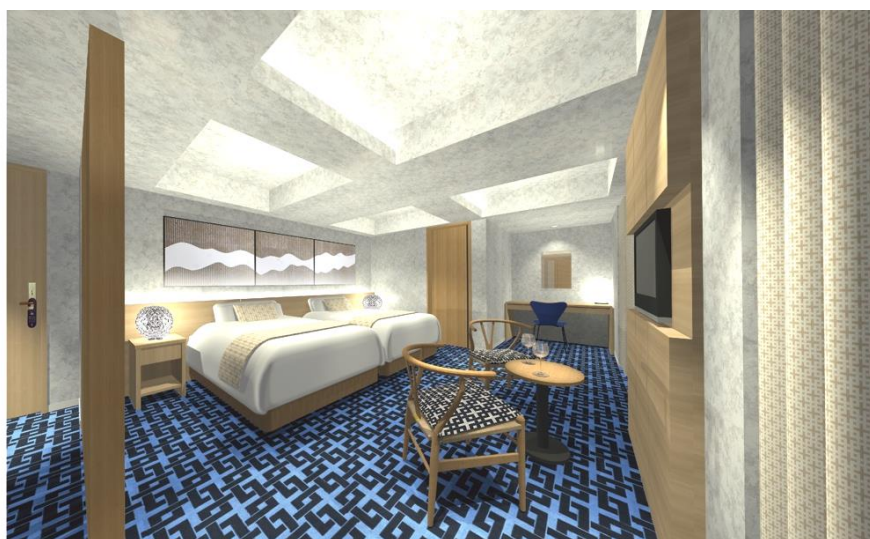



 50th
 ANNIVERSARY
 RIHGA ROYAL HOTEL
 KYOTO

リーガロイヤルホテル京都開業 50 周年記念
 雲母唐長^{きらからちよう} × リーガロイヤルホテル京都
 雲母唐長^{きらからちよう}コンセプトルーム 「金雲」^{きんうん} ・ 「銀月」^{ぎんげつ}
 2019 年 11 月誕生

リーガロイヤルホテル京都(京都市下京区東堀川通り塩小路 総支配人 山中 一茂)は、2019年11月1日に開業50周年を迎えます。これを記念し、京都で江戸時代から約400年続く日本唯一の唐紙屋を継承する「雲母唐長」(株式会社雲母唐長)監修の「金雲」、「銀月」と名付けられた2部屋のコンセプトルームを新設、11月初旬より販売開始予定です。



雲母唐長コラボレートルーム「銀月」完成予想図

雲母唐長がホテルの部屋を監修するのは、今回が初めてで「光と文様に包まれる幸せ」をテーマに雲母唐長コンセプトルーム「金雲」・「銀月」が誕生します。人々の祈りや願いがこめられた意味や物語を持つ美しい文様を客室内随所にふんだんに使い、『金雲』は「金とブルー」、『銀月』は「銀とブルー」の配色をキーカラーとします。

文様「角つなぎ」のブルー基調の絨毯を敷き詰め、壁や天井はそれぞれ金、銀で統一、金と銀の輝きを空間全体に乱反射させて陰影のある空間を目指します。

『金雲』は「南蛮七宝」、『銀月』は「角つなぎ」の文様のカーテンを用い、家具にも文様を使用、さらに唐紙アート作品で装飾するなど、「雲母唐長」の世界を贅沢に体感しながら滞在できます。『銀月』には、リーガロイヤルホテル京都の開業50周年を記念した新たな文様「想いのたけ 巡るつき」のアート作品を、『金雲』には、「天平大雲」文様によるアート作品を設置予定です。

●○●雲母唐長^{きらからちよう}コンセプトルーム「金雲」・「銀月」概要●○●

- 【販売開始】2019年11月初旬(予定)
- 【室数】2部屋(「金雲」1部屋、「銀月」1部屋)
- 【広さ】43.5平米
- 【室料】1室 50,000円前後(予定)

＜お客様お問い合わせ先＞

リーガロイヤルホテル京都 宿泊予約 075- 361- 3333 (直通)

本件に関する問い合わせ先

リーガロイヤルホテル京都 総支配人室 村田・長谷川・片桐
 〒600- 8237 京都市下京区東堀川通り塩小路下ル松明町1番地
 TEL : 075- 361- 9149 (直通) / FAX : 075- 361- 9150

【ご 参 考】

雲母唐長 (KIRA KARACHO) について

雲母唐長は、寛永元年(1624)に京都で創業した約 400 年続く日本唯一の唐紙屋を継承。唐紙師トトアキヒコと創業家の千田愛子が京都・嵯峨の地にて唐長を受け継ぎ、伝統的な襖や壁紙をはじめ、寺社仏閣などの文化財修復まで、現代の人々の暮らしに多種多様な唐紙の美を広く世界に伝えている。その長い歴史と愛着から、京都では親しみをこめて「からちようさん」と呼ばれている。

雲母唐長では、唐紙の文化を伝えるとともに、紙以外の異素材や他者とコラボレーションしたプロダクトを発表するなど、文様と色の美を通じて人々の暮らしを豊かにしたいとの思いをこめたモノづくりをしている。また、長い唐紙の歴史において初めて美術（アート）として作品を発表し、伝統的な唐紙に新しい道を切り拓いた。

【雲母唐長 HP】 <http://www.kirakaracho.jp>



↑ 唐紙制作風景



↑ 江戸時代から受け継がれてきた板木

雲母唐長コンセプトルーム「金雲」・「銀月」監修

■ トトアキヒコ

唐長の文化を継承する唐紙師。従来の唐長の唐紙を継承した襖や建具、壁紙、唐紙を用いたパネルやランプなど、現代の暮らしに合うさまざまな唐紙を制作している。唐紙をアートにした第一人者であり、唐紙の芸術性を追求し、点描とたらし込みを融合させ自らの指で染めていくトトアキヒコ独自の技法「しふく（Shifuku）刷り」や「風祈」から生まれる深淵な青い唐紙作品は、八百万の神様や精霊とともに手がけた詩情が宿るスピリチュアルな〈トトブルー〉と愛され、公共、商業施設、個人邸に納め続けている。

2010年、MIHO MUSEUM に作品「inochi」が収蔵・展示されると、史上初のミュージアム・ピースとなった唐紙として話題を集め、2014年には、東京国際フォーラム・相田みつを美術館で唐紙の歴史上初めてとなる唐紙アートの美術展を開催。名利養源院に奉納されたアート作品「星に願いを」は、俵屋宗達の重要文化財「唐獅子図」と並んでいる。同寺にある俵屋宗達の重要文化財「松図」の唐紙修復も手がけ、三十三間堂本坊 妙法院門跡、名勝・無鄰菴、護王神社などにも唐紙を納めており、京都だけにとどまらず全国の寺社仏閣から唐紙を依頼され、唐長として伝統の継承を行いつつ、現代アートなる唐紙の世界を築き、前人未踏の道を切り拓いている。

2015年9月、言霊と撮りおろした写真をまとめ、初エッセイ「日本の文様ものがたり」（講談社）を刊行。

2018年7月、百年後の京都に宝（心）を遺す文化プロジェクトを提唱し、「平成の百文様プロジェクト」主宰。江戸時代より先祖代々受け継いできた 600 枚を超える板木に加える新たな 100 枚として、唐長の新しい歴史を担う。

■ 千田 愛子

1624年(寛永元年)創業の唐紙屋『唐長』現当主 11 代目千田堅吉の長女として唐長を継承し、次代を担う。唐紙師である夫トトアキヒコと共に、唐長を世界と後世に伝えるための活動をしている。11代目より唐長の DNA としての色彩感覚を一番受け継いでいると認められた感性を活かし、幼少期より培われたその類希なる色彩感覚により、唐長の新境地として、従来の壁紙、襖紙の世界から新たにカードの世界を開拓。10代の頃から発表し続けている千田愛子の唐紙カードの世界は、独特の色彩感覚によって、老若男女問わず幅広い世代にファンが多く、海外でも好評を博している。

また豊かな感性を活かし、「KIRA KARACHO のある暮らし」をテーマに、先祖から代々大切に受け継がれてきた唐長文様を紙以外の素材へも表現し、インテリア、ファッションなど他者とのコラボレーションも積極的に行っている。

2004年開業のココン鳥丸ビルのファサードには、唐長文様の天平大雲が使われており、京都のランドマークとなっている。同年よりそのビル1階にある KIRA KARACHO ショップをプロデュース。

2015年9月、初エッセイ「京都の時間」（講談社）を刊行。

